

# 令和元年度 文化創造都市高岡推進懇話会 議事録(要旨)

日 時：令和2年2月28日（金） 13：00～14：30

会 場：高岡市役所 803 会議室

出席者：【座 長】長柄毅一

【委 員】川島鋼、駒澤義則、能作克治

【アドバイザー】佐々木雅幸

【事務局】福田市長政策部長、寺井文化創造課長、吉本係長、寺口主事

## 1 開 会

- ・市長政策部長あいさつ

## 2 座長の選出

- ・長柄委員を座長に選出

## 3 内 容

### (1) 報告事項

- ・令和元年度 文化創造関連事業の実施状況

事務局：— 資料説明 —

質疑

委 員： 10月4日に開催された万葉トークイベントは満員でキャンセル待ちが発生したとのことだったが、どのような状態だったか。マスコミに取り上げられるようなことはあったのか。

事務局： 満員ではあったが、全国メディアに取り上げられるようなものではなかった。

委 員： 各事業の広報はどのようにされているか。

事務局： 市広報誌「市民と市政」を基本として、文化創造都市高岡ウェブサイトにも掲載している。

アドバイザー： 万葉トークイベントの来場者の年齢層はどのくらいか。

事務局： 60代～70代が多かった。

もともと、万葉歴史館等への来場者についても高齢者が多かったが、令和に改元されてからは、家族連れ等も多く訪れておられ、層が広がったと感じている。

歴史や文化に関心のある層というところ、どうしても高齢者が多くなってしまうのだが、改元を機会とした万葉歴史館での展示や、山町筋のひなまつりに合わせた音楽イベントなど、親子連れや若い世代にも関心を持ってもらえるような取り組みも行っている。

・令和2年度 文化創造関連事業の実施状況

事務局： — 資料説明 —

委員： 先般、市職員を対象にしたプレスリリースの書き方の講演を行った。単なる事実を伝えるだけでは、メディアに届かない。文化創造都市というものを打ち出す上でのキーワードがあるとよい。昨日の総合計画審議会総括部会で、「みらいたかおか」というキーワードが示されたが、みらいたかおかって何？という問いかけがある。

今魅力的なコピーで注目を集めているのが、ケンタッキーの「今日、ケンタッキーしない？」というコピーだ。気になるワード、コピーがないと心に残らず、検索にもヒットしない。文化創造都市高岡ウェブサイトも興味を持って見ているが、なかなかリーチしづらい。アクセスしやすくなる工夫が必要だと思う。キャッチコピー等を作るのもひとつだ。

例えば、先ほどの「キャンセル待ち」という言葉一つでも、「キャンセル待ちが発生するほどのイベントが高岡にあるの？」というアプローチができる。

事務局： ウェブサイトでは、「ライバルはご先祖様」というキャッチコピーを使用している。しかしご指摘のとおり、複数の事業で使用しているものではない。

委員： コピーもそうだが、情報発信は事実の羅列ではいけない。若手職員に参加してもらい、「私だったらこう表現する」と考えてもらうプロジェクトがあると良いかもしれない。

委員： 彫金の仕事をする人たちと話をした時に、「高岡彫金という名前ではなかなか食いついてくれない、金沢では加賀象嵌と言って売っており、有名になっている」、という話があった。昔から、キャッチコピーを探しているが、なかなか上手くいっていない現状がある。最近の企業のコマーシャルなどでも、目を引くキャッチコピーがあり、工夫されていると思う。

委員： 「京野菜」もブランド化に成功している。金沢では「加賀野菜」。

そして、コピーは決めたら言い続けるということも大事だ。

高岡市の事業もひとつひとつ見ていくと、良いコンテンツが多くある。ミラレ金屋町の着物ファッションショーはとても面白い。メディアの取り上げられ方についても物足りないと感じる。

委員： 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーの入館者数が少ない。鳥取県境港市の水木しげるロードに行ってきたが、商店街が全て開いており、来場者も多く、大変賑わっていた。キャラクターの銅像が設置されており、（高岡で制作したものなのだが、）100万円で寄付をした人の名前を入れられるそうで、市民から寄付を募っているとのことであった。

委員： 高志の国文学館で開催された藤子不二雄 A 展は良かった。アニメファンが多く訪れていた。藤子・F・不二雄氏が高岡市出身という事実をしっかりと情報発信することが大事だ。

## (2) 協議

・文化創造都市高岡推進ビジョン 進捗状況

・文化創造都市高岡の実現に向けて

事務局： — 資料説明 —

委員： 戦略1「知る」方向性4「地域文化への誇りと愛着の醸成」の、ものづくり・デザイン科の授業は非常に効果が出ていると感じる。この授業で当社に見学に来た児童・生徒で、当社に就職した人もいる。富山大学芸術文化学部でものづくりを学んだ生徒が当社に就職したケースもあり、全部で5名程度いる。当社だけでなく、市内の他の企業にもいる。

文化創造都市高岡推進ビジョンを見ると、「知る」の分野が上手くいっていないと思う。例えばクラフトコンペは全国的には有名だが、市民はほとんど知らない。市民が集まるようなイベントはたくさんあると思うので、スタンプラリーを作って、様々なイベントを巡ってもらい、抽選で賞品をプレゼントするなど、何か仕掛けが必要だ。まず、市民に知ってもらうことが大切だ。

委員： 行政は、そうしたプロモーションには予算をつけづらいのだと思う。

委員： その場合は民間から協賛を募るなどの工夫が必要だ。

当社では DMO 的な動きが出てきている。以前実施した企画で、能作でぐい呑みを作り、若鶴で日本酒を飲み、やまふじぶどう園でワインを飲むというツアーがあり、とても人気だった。参加者に女性が多くて驚いた。

委員： とても魅力的な企画だと思う。

アドバイザー： 工芸都市というのは何かと掛け合わせると良い。食というのは動員力が高いので、魅力的なものになる。

委員： 当社には今年約 13 万 5 千人が来場した。人が集まっているので、もっと高岡市として活用してもらえればと思う。

アドバイザー： 産業観光という言葉はあるが、工芸観光という言葉も出てくると思う。金沢市ではクラフト・ツーリズムとして、着地型観光等を進めている。

委員： 高岡市でも、民間で頑張っている方はいる。点は多いが、繋がっていない印象だ。県西部で DMO 候補法人が立ち上げられ、富山県の百何十社が参加している。それに協力してもらっているヤフーからの情報だが、県西部で一番多い検索ワードが「能作」だそうだ。五箇山検索より多い。そして検索者の属性も分かる。滞在率も分かるようで、長いそうだ。

委員： 高岡市のホームページについて聞いたところ、滞在率が低いとのことだった。ホームページについても改善を要求しているが、なかなか変わらない。

委員： 点在しているコンテンツや情報をまとめるしくみがあると良い。

座長： ビジョンの中間評価としてはどうか。

委員： 概ね順調ではないか。高岡市に関連した記事等の件数が増えているのは良いことだが、記事は件数ではなく中身が大事だ。いくら地元の新聞に取り上げられても、外へのプロモーションにはならない。

事務局： 資料に記載した数字は、県外のメディアに取り上げられた件数で、地元の新聞等が入っていない。

アドバイザー： 「創造都市」で検索すると、横浜、金沢あたりの記事が多く出てくる。情報発信の際は、個別の事業で、ハッシュタグをつける等しないと、なかなかひっかかってこない。

座長： ビジョンの進捗としては、概ね順調ではあるが、情報発信等に工夫が必要といったところか。

アドバイザー： 富山大学芸術文化学部も努力していると思う。学生らが様々なことに取り組んでいる。4年生大学で芸術文化学部というものは他にはない。

委員： 北前船の瓦版（タブロイド紙）の配布先はどこか。

事務局： 全国の美術館、博物館、北前船の関連施設を中心に、商業施設やメディアの方などに配布している。

委員： この瓦版はとても良くできている。東京地域の新聞折込み等に入れられると面白い。目につくため、インパクトがある。こうしたもののプロモーションにお金をかけた方が良い。

委員： 高岡テクノドームに併設して、1,000人規模のコンベンションホールを作る計画があり、県で検討されている。それも高岡市としては有効活用できる。現在市民会館が休館中だが、音楽イベントやe-スポーツなどに活用されることが期待されている。

アドバイザー： ビジョンが作成されてから5年ということで、非常に多くの事業を実施されてきたことが分かった。よくやっていると思う。しかし、これを1本にまとめて発信することが課題だ。

市民のコンセンサスを得られる、シビック・プライドのコアとなる象徴的な事業があると分かりやすい。それを創造都市のシンボリックな位置づけにするかどうかは、大きなテーマだ。

金沢市は平成16年に金沢21世紀美術館をオープンした。結果的に金沢市の創造都市のシンボリックな存在になっており、15年間活動を引っ張ってきた。横浜市は銀行の建物を活用したBankArt、BankStationという取り組みがある。神戸市

は旧生糸検査所をデザイン・クリエイティブセンターとして活用している。何かひとつシンボリックなものがあると分かりやすい。

高松市では、平成 22 年から瀬戸内国際芸術祭が開催されており、ゲートシティとなっている。そうした国際的な芸術祭やコンペなどのイベントもひとつのきっかけになるかもしれない。先ほど富山県の国際工芸アワードの話があったが、スペインのロエベというブランドが、財団を設立し、国際的なクラフトのアワードを実施している。非常にインパクトがあり、世界的なクリエイターが注目している。高岡でも、そうした民間の動きがあっても良い。求心力のあるものが必要だ。